

平成 30 年 7 月豪雨を踏まえた高梁川本川沿川4市長との意見交換会 議事概要

日時:令和6年1月31日(水)13:30~15:30

場所:岡山河川事務所 2 階会議室

【市長から出された主なご意見】

- 昨年 8 月の台風 7 号による大雨では、岡山県北部で日雨量が観測史上最大を記録する大雨となったが、河川氾濫は発生しなかった。岡山県の河道掘削、樹木伐採、岡山県及び中国四国農政局が管理するダムの事前放流や低水位管理による効果が大きかったと考えており、取り組みに感謝申し上げる。
- 一級河川高梁川水系中上流ブロック河川整備計画(令和3年10月)に基づく河川改修について、令和 6 年度の新規事業の着工を願うと共に、引き続き支川の河川改修もお願いしたい。
- 今年度は、岡山県と共同で総合防災訓練を実施した。防災、減災の促進に向け、関係機関との連携強化や体制構築に取り組んでいく。
- 今年度は降雨が少なく渇水対策に取り組む中で、水資源は重要だと改めて感じている。
- 平成 30 年 7 月豪雨からの復興が進む中で、住民の防災意識の低下を感じている。昨年 7 月に災害写真展を実施し、浸水 AR による疑似体験等を通じて防災意識の啓発、防災を考える機会の創出に取り組んだ。
- 昨年 8 月の台風 7 号による大雨では、大雨洪水警報が発表されたが、避難情報の発令はしなかった。これは、河川整備やダムの事前放流等の取り組みによる効果だと感じており、感謝申し上げる。
- 市町村災害対応統合システムの開発について、高梁市での実証実験結果を基に、高梁川流域単位での取り組みに拡大、精度向上がなされ、避難に活用できるように期待している。
- 一級河川高梁川水系中上流ブロック河川整備計画(令和3年10月)に基づく河川整備について、住民の関心も高く、早期事業着手をお願いする。市として雨水排水対策(雨水ポンプ整備)や避難施設(JR 駅舎と一体となった施設整備)の整備を進めている。
- 中国電力の協力により、昨年 6 月にダムの現場視察を実施させていただき、取り組みについて理解を深めることができた。今後も更なる連携に努めたい。
- 軽部川の浸水対策について、岡山県へ河道掘削をお願いしたい。国土交通省には昨年末に補正予算で調査費を確保していただいており、調査検討結果でポンプの増強を見据えた結果が出てくれば、総社市としても流域治水として取り組んでいこうと考えている。
- 高梁川の河川整備について、河道掘削や河道内の樹木伐採及び堤防整備をお願いしたい。
- 小田川合流点付替え事業について、計画通り、確実に進捗していることが地域の安全安

心につながっており、感謝申し上げます。河川整備の事業進捗に伴って道路も通行し易くなっており住民にも喜ばれている。河川敷の利用を含め、様々なハード・ソフト対策を進めて頂いていることに感謝申し上げます。

- 中国電力とは、ダム of 事前放流の際に一緒にパトロールを実施でき、住民の安全安心につながっていると感じている。
- 市の防災フェアを2年連続して実施しているが、親子連れで参加してくれる方が多く、防災・減災、流域治水の自分事化が浸透していると感じている。
- 小田川合流点付替え事業の後には、酒津地区の工事(笠井堰改築等)の早急な対応をお願いしたい。また、河川整備だけでなく、維持管理まで含めて適切をお願いしたい。
- 去年秋頃の復興懇談会では、工事が進捗して良かったという意見が多く上がった。一方で、「事業完了後にはどのくらい水位が下がるのか」と言う質問が増えてきて、住民の関心が高まっていると感じている。
- 今年3月の工事完了後に、国も整備効果を確認していただくようお願いしたい。
- 中国電力には、本意見交換会での要望を受け、ダムの事前放流に取り組んでいただいたことに感謝申し上げます。
- 川辺橋について、岡山県には迅速に対応いただき、現在仮復旧まで進めていただいていることに感謝申し上げます。引き続き、本復旧をお願いする。

【河川管理者及びダム管理者からの主な発言】

- 国、県の河川整備及びダム管理者の取り組みについて、一定程度の効果が発現されたことを確認できた。引き続き効果を発現できるよう、国管理河川の河川整備について維持管理も含め進めていく。
- ダムの事前放流については、河川管理者だけでなく農政局、中国電力とも連携し実施してきた取り組みで、効果も発現しておりこの会議の成果の一つである。今後とも、農政局、中国電力等の関係者と連携し、流域治水の推進に向け継続して取り組む。
- 治水事業促進のためには予算確保が重要と考えており、国管理の河川管理者として事業の必要性を説明していくので、市長からも必要性を一緒に訴えていただきたい。
- 県管理河川の河川整備促進についても、整備局には県の事業推進を支援する部署もあるので、予算確保に努めていく。
- 河川事業の整備効果を見える化することで、予算確保に繋がると考えている。
- 軽部川は岡山県、総社市の管理河川であり、総社市も面的に排水エリアを持っており、流域治水を進めていく上での具体的なモデルと考えている。全体としてどういうメニューを組み合わせれば効果的な被害軽減につながるか、ポンプの増強だけでなく、河川の改修と合わせて面的な排水能力を向上させるトータルのメニューで評価していく必要がある。岡山県、総社市と一緒に考えていきたい。
- 住民の方の防災意識の向上について、流域治水プロジェクトの推進に基づきながら引き

続き取り組んでいく。

- 渇水対策について、取水制限にご協力いただき、お礼申し上げます。引き続き、最適な取水制限により水が長期間使用できるようご協力をお願いしたい。
- 小田川合流点付替え事業の事業効果については検証していくので、今後も情報共有する場を設けたい。
- 洪水浸水想定区域図(想定最大規模)は、避難に資する情報として発信しているため、河川整備事業による効果は、河川整備目標規模の洪水に対する効果を示すことで事業の必要性を示していく。
- これらを通じて、安心安全な国土づくりを意識して取り組んで行く。
- 高梁川中上流部の河川改修は、一級河川高梁川水系中上流ブロック河川整備計画(令和3年10月)に基づき、令和6年度から事業化し早期に工事着手するため、推進にあたりご理解・ご協力をお願いしたい。
- 河道内の河道掘削と樹木伐採を重点的に取り組んでおり、来年度以降、予算を拡大して実施する予定である。
- 河川改修促進には予算の確保が重要と認識しており、国土強靱化の次期計画拡充に市長からも声を上げて欲しい。
- 軽部川の浸水対策は対応可能なことから始めているが、高梁川水位が上昇すると排水困難となることから、国土交通省が主導する検討内容を踏まえ協力して対応していく。
- 福谷地区の樹木伐採は令和4年度から実施している。美袋地区の樹木伐採については、浸水対策重点事業を、令和7年度完成を目指し実施中であり、その事業効果を踏まえ、この地区でどのような対策が必要か見極めながら、対応していきたい。種井地区は JR 伯備線が近く抜本的な対策が難しい箇所であるが対策を検討中であり、今後、関係者と協議していきたい。作原から美袋地区の堤防整備は浸水対策重点事業として実施しており、概ね予定通り進んでいる。以前もお願いしているが、河道掘削により発生した土砂の置き場について引き続き各市にはご協力をお願いしたい。
- 川辺橋については、現在仮復旧を完了させ、本復旧に向けて検討中である。
- 当機関としては、農業者・利水者を第一として、引き続き対応可能な取り組みを実施する。
- 今年度の出水期間中について、新成羽川ダムの事前放流はルール通り実施できた。
- ダム操作関連設備の点検整備、操作者の教育を引き続き実施していくことで、体制整備に万全を尽くしていく。

【今後の予定】

- 本意見交換会の当初の目的は概ね達成したと認識している。小田川合流点付替え事業が完了した来年度出水期後に次回意見交換会を開催し、事業効果等を提示して、区切りにさせていただきたいと考えている。
- ほとんどの事業が令和5年度内に完了するため、令和6年度の出水に対して事業効果を

検証し、結果を関係者で共有したい。

- 本意見交換会終了後も引き続き必要な意見交換は、4市長を含む各市町村長と「高梁川水系大規模氾濫時の減災対策協議会」の場で実施したい。
- 本意見交換会の区切りについて、問題はない。

【質疑】

- 小田川合流点付替え事業完成に伴う洪水浸水想定区域図の見直しについて、L2(想定最大規模)の浸水範囲が減るというイメージがあるが、どうか。
- 浸水想定は総社市の都市計画にも連動する話で、国土強靱化で河川改修、河道掘削、築堤をやって、L2 浸水エリアが減少すれば、居住や、企業誘致するエリアが増えてくる。事業完成後も L2 浸水エリアが減少しないというのは、モチベーションが下がる。
- L2(想定最大規模)を外力とした場合、事業完成後でも浸水範囲の減少は僅かとなるかもしれない。想定最大規模だけでなく、河川整備目標規模の洪水に対する事業効果や、様々な安全度に関し多段階的なリスクマップを示して説明していくことで、事業の効果や必要性を理解していただくことにつながると考えている。

—以 上—